



キャンプが YMCAとの出会い

大塚 英彦

Hidehiko Otsuka

横浜YMCAスタッフ

▼キャンプ～YMCAとの出会い

YMCAとの出会いは、小学校低学年の頃。北海道帯広YMCAのアドベンチャークラブの参加者でした。最初は、年間のプログラムの中の一回来る魚釣り（プログラム）をしたいがための参加でした。しかし、回数が増えるに連れて、リーダーたちに会えることを楽しみに参加していたことを覚えています。

キャンプでのリーダーたちは、火起こしをしたり、テントを立てたり、朝早く起きて朝食作りをしたり、キャンプのすべてを私たちと一緒にし、本当にかっこよく見えました。高学年になると、そんなリーダーたちの仲間入りをしたく、あの手この手でリーダー役を真似ようとしていました。そんな私のありのままを受け入れ、たまにはチャレンジをさせてくれたり、「内緒だよ」と言って朝食のつまみ食いをしたり、そんなキャンプの日常の時間がとてつもなく楽しく、特別な時間でした。

特に廃校を使ったキャンプが一番楽しかったことを覚えています。楽しすぎて、キャンプから帰ると、そのギャップでなぜか不機嫌になり、親を困らせるほどでした。

▼盛岡Y M C Aでのリーダー時代

小学校卒業後、しばらくY M C Aとキャンプとは離れていたのですが、再びY M C Aと出会ったのは大学一年生でした。最初は何気ない気持ちで「小学生の頃、関わっていたリーダーってどんなだっただろう？」という興味だけで、サッカーの活動に行ってみました。そこで出会ったのは、個性豊かな子ども達と、それ以上に個性豊かなリーダーたちでした。それぞれの個性で子ども達と向き合い、ここでも魅力的に感じたことを覚えています。気づくといつの間にか自分もY M C Aのリーダーになり、キャンプをはじめ多くの活動に参加していました。

生活を共にするキャンプでは、そのリーダーの個性が溢れ、それぞれの持ち味で子ども達と向き合い、楽しめます。居心地がよく、楽しく、リーダーが子どもたちからも、他のリーダーから見てもかっこいいのは、みんなが、ありのままを受け入れ、個性が生かされているからのような気がします。



▼スマトラ沖地震・津波の被災地へのワークキャンプへ。

大学一年生の3月に、Y M C Aスタッフからの「スリランカに行かないか？」という一本の電話がありました。それは、2004年の12月に発生したスマトラ沖地震・津波の被災地へのワークキャンプでした。当時、スリランカがどこにあるかもわからない自分に声をかけていただいたことに本当に感謝しています。全国から集まった6人がスリランカ東海岸のワラチャナイという町を訪問しました。

そこにはスタッフがおらず、仕事終わりに集まるボランティアが運営する小さなY M C Aがありました。子どもたちの心の支援で訪れた被災地で、サッカー、ダンス、レクリエーションとひたすら遊び続けた1週間。とびきりの笑顔を輝かせ無邪気に遊ぶ子どもたちと出会いました。夕方まで遊んだ子どもたちが帰るのは、簡単な木や藁で作ったような仮設の家でした。子どもたちと仲良くなり、笑顔に元気をもらいました。その分、一人ひとりを取り囲む環境や、抱える課題のことを考えると複雑な気持ちになりました。



その後、大学生時代に東ティモールでの活動や、横浜 YMCA を通じたタイでのボランティアなどを経験しました。現在は横浜 YMCA のスタッフとして、多くの方に関わっています。横浜 YMCA でも、地域センターや東日本大震災復興支援活動、キャンプ場や英語学校などに関わってきました。昔も今も、YMCA では多くの素晴らしい出会いがあります。その素晴らしい出会い一つ一つが自分にとって大きな刺激となっています。そんな私の人生を大きく方向付けた YMCA。その YMCA との出会いがキャンプだったのです。

Profile



1985 年北海道苫小牧市生まれ。
2010 年岩手県立大学総合政策学部卒業
小学校低学年時に、北海道帯広 YMCA の野外活動クラブ「アドベンチャークラブ」をはじめ多くの活動に参加。
大学生時代は、盛岡 YMCA でリーダーとしてキャンプ、サッカー、野外活動などを経験。
日本 YMCA 同盟を通じたスリランカでのスマトラ沖地震・津波後のワークキャンプや東ティモールインターンプログラムに参加。
横浜 YMCA を通じたタイ長期派遣ボランティアとしてパヤオセンターでのボランティア活動に参加。

【取材：盛岡 YMCA 総主事 濱塚有史】